

「若年健常者から分離した黄色ブドウ球菌におけるメチシリン耐性株（MRSA）の検索」  
に対するご協力のお願い

埼玉県立大学 学長 星 文彦

このたび、下記の医学系研究を、埼玉県立大学、人を対象とした研究審査委員会の承認ならびに学長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施しますので、ご協力をお願いいたします。

この研究を実施することによる、研究対象者への新たな負担は一切ありません。また研究対象者のプライバシー保護については最善を尽くします。

研究の対象となる卒業生の皆さまのうち本研究への協力を望まれない方は、その旨を研究代表者の村井まで、5月1日（ホームページ掲載日2月1日から3ヶ月後）までに申し出ていただきますようお願いいたします。

#### 1 対象となる方

2016年～2018年に実施した「喉・鼻の常在菌と日常的な口腔保健行動や呼吸法との関連」の研究に参加された、健康開発学科、口腔保健科学専攻および検査技術科学専攻の延べ313名の3・4年次生（うち111名は1年の間隔を置いて2回調査に参加）。

#### 2 研究課題名

承認番号（承認後に付記）

研究課題名「若年健常者から分離した黄色ブドウ球菌におけるメチシリン耐性株(MRSA)の検索」

#### 3 研究実施機関

共同研究機関

研究責任者

埼玉県立大学（主機関）

村井美代

国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター

菅井基行

#### 4 本研究の意義、目的、方法

##### （1）研究目的

若年健常者の鼻腔および咽頭に常在する黄色ブドウ球菌に占めるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の割合を求め、得られたMRSA株について全ゲノムシーケンセスを行って菌株の特徴を明らかにする。

##### （2）研究の背景や意義

近年、抗菌薬が効かない薬剤耐性（AMR: Antimicrobial Resistance）をもつ細菌が世

界中で増えている状況を踏まえ、2015年5月の世界保健機関（WHO）総会で「薬剤耐性（AMR）に関するグローバル・アクション・プラン（2016-2020）」が採択された。日本政府が策定した「AMR対策アクションプラン2016-2020」では、臨床で分離された黄色ブドウ球菌におけるMRSAの割合を、2014年調査報告の51%から2020年までに20%未満にする数値目標が設定された。しかし厚生労働省の院内感染対策サーベイランス（JANIS）の集計では、目標年を経過した2021年においても入院検体で46.0%、外来検体でも30.2%と目標達成にはほど遠い。この一因として、市中に無症候性のMRSA保菌者が多いことが予想されるが、その実態は明らかになっていない。

そこで研究代表者は、2016-2018年にかけて若年健常者を対象に鼻腔と咽頭について黄色ブドウ球菌の保菌調査で得られ凍結保存している菌株を対象にMRSAが存在しているのか調べることにした。

近年のMRSAによる院内感染では、院内流行株が減少し、市中から持ち込まれた菌株が多いとされる。市中で健常人が保菌するMRSA株の特性が明らかになれば、院内への持ち込みの監視やアウトブレイクの予防、早期発見に役立つ。

### (3) 研究方法

- ① 凍結保存された黄色ブドウ球菌をTSA平板培地で培養し、増殖したコロニーを用いMRSAの保有遺伝子*mecA*を検出するコロニーダイレクトPCRを行う。MRSAが確認された株について、ドライプレート“栄研”を用い微量液体希釈法にて薬剤感受性試験を実施する。さらに次世代シーケンサーを用いた全ゲノムシーケンスを行い、菌株が持つ病原遺伝子や薬剤耐性遺伝子の保有状況を明らかにする。
- ② MRSAが検出された検体提供者について、検体採取時の学年とその前後の保菌調査参加状況および保菌状況を調査し、保菌が一過性か継続的なものかを検討する。採取年は取得しない。また保菌調査参加前6か月以内の抗菌薬の服用の有無および服用した薬剤の名称を参照する（使用の理由となった疾患名は取得していない）。
- ③ 菌株および質問紙のいずれも対応表は破棄されているため、個人を特定できない状態で研究を進める。

## 5 協力をお願いする内容

MRSAが検出された検体提供者について、調査参加時の下記の情報を参照します。

- 1) 検体採取時の学年とその前後の保菌調査参加状況および保菌状況（採取年は取得しません）。
- 2) 保菌調査参加前6か月以内の抗菌薬の服用の有無および服用した薬剤の名称（使用の理由となった疾患名は取得していません）。

## 6 本研究の実施期間

2023年2月（研究許可後）～2024年3月31日（予定）

#### 7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う個人情報は、在学時の学年、研究参加回数、保菌調査前6ヶ月間の抗  
菌薬の服用の有無のみです。その他の個人情報は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う黄色ブドウ球菌は、保菌者情報をすべて削除し、第3者にはどなたの  
ものか一切わからない形で使用します。
- 3) 研究対象者の個人情報と、匿名化した菌株および質問紙を結びつける情報（連結情報）  
は、研究参加者の卒業時に破棄しています。

#### 8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

埼玉県立大学 健康開発学科 検査技術科学専攻  
教授 村井美代

〒343-8540 埼玉県越谷市三野宮 820

e-mail: [murai-miyo@Aspu.ac.jp](mailto:murai-miyo@Aspu.ac.jp) （メール時にはAを@に変更して下さい）

TEL/FAX: 048-973-4728